



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



木曽地方の温帯性針葉樹林（長野県木曽郡上松町 小川入国有林）

木曽地方の温帯性針葉樹林の保存・復元 ～未来に向けて森林の保存・復元に取り組む～

主な項目	○ 平成26年度治山・林道工事コンクール表彰式の開催……………	P 2
	○ 各地からのたより……………	P 6
	○ シリーズ「森林官からの便り」……………	P 8
	○ シリーズ「ご当地自慢」……………	P10



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

平成二十六年 度

治山・林道工事コンクール
表彰式の開催

平成二十六年 度治山・林道工事コンクール表彰式を、三月六日に中部森林管理局において実施しました。

このコンクールは、国有林野の公益的機能を十分に発揮させ、森林林業の再生の推進その他の事業実施における施策効果を一層発現させることに貢献した治山・林道工事であって、民有林の模範としてふさわしいものを表彰することにより、治山・林道工事における計画、設計・施工の適正化及び設計・施工技術の向上、並びに関係者の意欲高揚に資することを目的に、治山部門は昭和四十二年 度から、林道部門は昭和四十四年度から実施しています。

前年度に中部森林管理局管内で施工した、治山工事百七十五件、林道等工



審査報告を行う中村森林整備部長

事三十八件を対象に施工管理全般及び安全管理について審査を行い、治山部門で十四件、林道部門で六件を優良工事として選出しました。この中から、優秀工事として治山部門四件・林道部門一件を林野庁表彰に推薦し、四件が林野庁長官賞を受賞しました。



表彰状の授与

また、優良工事として選出した、治山部門十四件の内十一件、林道部門六件の内五件と、林野庁長官賞を受賞した工事の現場代理人、主任技術者並びに監督職員が中部森林管理局長賞を受賞しました。

表彰式は、中村森林整備部長が審査報告を行った後、奥田局長が賞状を授与しました。

なお、林野庁長官賞の授与式は局長表彰に先立ち、二月二十三日林野庁において行われました。

各賞の受賞者は次のとおり

◎林野庁長官賞

〔治山工事部門〕

◇小谷建設株式会社

土谷川地すべり防止工事

(小谷村)
(中信署)



土谷川地すべり防止工事 完成状況

◇株式会社長瀬土建

阿多野郷(黒谷2)復旧治山工事

(高山市)

◇株式会社尾割組

瀬戸(余床川)復旧治山工事

(愛知所)

〔林道工事部門〕

◇株式会社相模組

鹿島川林業専用道新設外工事

(大町市)
(中信署)

◎中部森林管理局長賞

〔治山工事部門〕

◇中越興業(株)・宮口建設(株)

経常建設共同企業体

(南砺市)

平成二十五年度スゴ谷下流

復旧治山工事

株式会社守谷商會

(富山署)

平成二十四年度蔵野沢

災害関連連緊急治山工事

(北信署)

◇宮下建設株式会社

手良沢山水源地域整備事業

(伊那市)

◇奥田工業株式会社

奥二又復旧治山工事

(大桑村)

◇株式会社名工土木

鍋割中ノ沢(中ノ沢)復旧治山工事

(南木曾支署)



鍋割中ノ沢(中ノ沢)復旧治山工事 完成状況



東俣谷林業専用道新設工事 完成状況

◇窪田建設株式会社 (駒ヶ根市)

平成二十四年度通ヶ沢復旧治山工事

〈伊那谷総合

◇株式会社トライネット (飯田市)

平成二十四年度大西山復旧治山工事

〈伊那谷総合

◇小坂建設株式会社 (白川村)

三方崩 (弓ヶ洞) 復旧治山工事

〈飛騨署

◇株式会社清水建設 (飛騨市)

池本山 (下津野支溪) 復旧治山工事

〈飛騨署

◇日下部建設株式会社 (下呂市)

馬瀬 (老谷) 復旧治山工事

〈岐阜署

◇株式会社加藤工務店 (中津川市)

湯舟沢 (コハ清水) 復旧治山工事

〈東濃署

◇マツナガ建設株式会社 (須坂市)

大持林業専用道新設工事

〈北信署

◇大宗土建株式会社 (南木曽町)

ムクリ沢林業専用道新設外工事

〈南木曽支署

◇大山土木株式会社 (高山市)

東俣谷林業専用道新設工事

〈飛騨署

◇橋本建設株式会社 (高山市)

一色第二林業専用道新設工事

〈飛騨署

◇付知土建株式会社 (中津川市)

高時山 (カシモ谷) 林業専用道新設工事

〈東濃署



受賞者の皆さんと記念撮影

〔現場代理人、主任技術者及び監督職員
部門〕

◇土谷川地すべり防止工事

小谷建設株式会社

主任技術者 北村 武揚

監督職員 岡庭 敏夫

◇阿多野郷 (黒谷2) 復旧治山工事

株式会社長瀬土建

主任技術者 牛丸 聡

監督職員 宮地 源治

飛騨森林管理署

監督職員 伊藤 明

◇瀬戸 (余床川) 復旧治山工事

株式会社尾割組

主任技術者 吉原 浩司

監督職員 倉品 幸平

愛知森林管理事務所

◇鹿島川林業専用道新設外工事

株式会社相模組

主任技術者 松田 博文

監督職員 中村 博文

中信森林管理署

中川地区民有林直轄治山事業

概成記念式典開催される

〔伊那谷総合治山事業所〕二月十九日、長野県上伊那郡飯島町文化館において、関係者約八十名による中川地区民有林直轄治山事業の概成記念式典を挙行了しました。

中川地区は、昭和三十六年の梅雨前線



挨拶を行う奥田局長

豪雨により被災したことから荒廃山地河川の緊急復旧を図るため民直事業を実施してきました。災害翌年の昭和三十七年から今年度末までの五十三年間、総工事費約百三十億円を投入し、今般事業を完了することとなりました。

式典の開会にあたり、奥田局長より、「本事業が無事概成に至ったのは、関係者各位のご理解・ご協力の賜物である。」と感謝と喜びの言葉が述べられました。

続いて、林野庁森林整備部治山課山地災害対策室・河合室長、長野県林務部・塩原部長、関係市町村長代表・杉本駒ヶ根市長の各位より、昨今の自然災害リスクと被災軽減につながる治山施設の重要性、長期間の事業採択への感謝を交えた祝辞を賜りました。

また、中村技術専門官、立邊治山技術官から、三六災害時の被災写真や事業初期の人力による復旧工事状況、時代経過とともに変わる工法、植生回復が進む山林と溪畔林などの説明がありました。

閉会にあたり、洞口所長より半世紀にわたる本事業に携わった全ての関係者に感謝の意を表し、式典を終了しました。

「木曽地方の温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組」に向けて

地域の名称「森林生物多様性復元地域」
地域の愛称「木曽悠久の森」

【計画課】中部森林管理局では、世界的にも希少で貴重と言われている「木曽地方の温帯性針葉樹林」を保存・復元していく取組について、平成二十五年度から有識者等による委員会を開催し検討を進めてきました。

今年度は、昨年度の検討委員会の報告書を踏まえて制定した「温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組について」（中部森林管理局長通知）に基づき、新たに有識者等一六名からなる管理委員会（座長・名古屋大学 山本進一名誉教授）を設置しました。委員会では、取組区域内の森林の取扱い方針等を定めた管



第三回管理委員会の様子

理基本計画を作成することとして検討を進め、三月十一日に第三回管理委員会を開催し、管理基本計画の取組方針をまとめました。この取組方針は、林野庁で今年度検討している保護林制度の見直しを踏まえて、来年度末までに、木曽谷（長野県木曽郡）及び木曽川（岐阜県中津川市）森林計画区の地域管理経営計画の別冊の管理基本計画として位置づける予定です。また、今年度は取組区域「森林生物多様性復元地域」の愛称を一般公募し、一四六名の応募数の中から最も応募多数であった「木曽悠久の森」に決定しました。

「木曽悠久の森（森林生物多様性復元地域）」イメージ



進めていく予定です。また、大学や研究機関の研究者、地域住民を対象とした現地見学会や一般の方々を対象にした写真コンテストの開催も予定しています。

本取組は、数百年にわたる超長期の取組を継続させていくことが重要で、地元をはじめ多くの方々の理解と協力が不可欠です。これまでの検討委員会及び管理委員会の概要及び配付資料は中部森林管理局HPに掲載しています。是非ご覧ください。

<http://www.rinyamaf.go.jp/chubu/kekaku/13026kentoinkai.html>

第三回中部地区広域原木流通協議会開催される

【名古屋事務所】中部地区広域原木流通協議会（鈴木和雄会長、植木達人座長）は、二月十八日、第三回協議会を名古屋市内において、学識経験者、中部森林管理局、中部八県（長野、静岡、岐阜、愛知、新潟、富山、石川、福井）、県森連、市場、中央団体など関係者の出席の下で開催されました。

議事では、第一回、第二回で検討を重ねてきた「中部地区広域流通構想」が承認されました。

同構想には、原木の広域流通に関する計画として、①広域流通による原木の供給体制②流通コストの削減③原木供給可エネルギーの安定化④山元に還元する利益を増

大させるための基本方針⑤原木の品質確保が盛り込まれています。

その後、国有林、各県の行政、森林組合連合会、市場などの関係者から、それぞれの地域・市場の木材需給動向の報告・情報交換が行われました。その中には、各県において素材生産量の増大への取り組み、素材生産における人材育成の課題、木質バイオマス発電施設への供給と製材・合板・チップ等への影響など多数の意見等が出されました。

議事終了後には、名古屋大学大学院生命農学研究科准教授の山崎真理子氏による「製材品の強度を丸太の段階で推定し、効率的な応力波測定法」の講演が行われました。講演は、弾性波法によるヤング率評価、木材強度の観点から見た需給バランスの必要性、木材の有効活用、木材産業の振興のための地域産材活用建築、材質に応じた利用の重要性など、興味深い内容でした。



第三回協議会の様子

各種研究発表会に中部局の研究 研究成果、取り組み等を紹介

〔技術普及課〕中部森林管理局では、今年度、林野庁や研究会等主催の各種研究発表会に、平成二十五年度中部森林技術交流発表会で発表された国有林における課題を中心とした実証試験等の研究成果や民国連携の取り組み等について発表しました。

いずれの発表会でも多くの質問意見が出され、中部森林管理局の取り組みへの関心の高さが伺われました。

昨年十二月四日に開催された「平成二十六年国国有林野事業業務研究発表会」では、森林技術部門において、飛騨署の「民国連携による市町村森林整備計画のブラッシュアップについて（指標林の設定）」（岐阜県飛騨農林事務所と共同発表）が林野庁長官最優秀賞に、木曽署の「高齢級人工林ヒノキのブランド化について」（木曽官材市売協同組合との共同発表）が全国木材組合連合会会長賞に、また、森林ふれあい部門においては、東濃署の「岐阜県恵那農林事務所と東濃森林管理署の連携」（岐阜県恵那農林事務所との共同発表）が林野庁長官最優秀賞を受賞し、地域と連携した取り組みが高く評価されました。

今後も各種発表会へ積極的に参加し、業務研究等を通じて中部森林管理局の取り組み等を広く発信していきたいと考え



中部森林学会での南信署の発表風景

ています。

発表会名、発表課題、発表署等は次のとおりです。

発表にあたり、ご協力をいただきました関係団体等の皆様方には心から御礼申し上げます。

・第五十回関東・中部地区治山林道研究発表会
(八月二十八日)

「急傾斜地における法枠工の経過と勾配緩和網の導入について」

富山署、日本植生株式会社

・第五十四回治山研究発表会

(十月八日)

「治山工事における県産材型枠合板の実証的施工について」

中信署

・第四回中部森林学会研究発表会

(十月二十五日)

「白馬岳の山火事跡地のモニタリング調査について」

中信署、信州大学山岳科学研究所
「間伐材を利用した木製治山ダムの施工について」

南信署

「ササ生地におけるコンテナ苗を活用した更新の試み」

森林技術・支援センター

・国国有林野事業業務研究発表会

(十二月四日)

「伐採と造林の一貫作業システムについて」

北信署、信州大学農学部

「高齢級人工林ヒノキのブランド化について」

木曽署、木曽官材市売協同組合

「民国連携による市町村森林整備計画のブラッシュアップについて（指標林の設定）」

飛騨署、岐阜県飛騨農林事務所

「岐阜県恵那農林事務所と東濃森林管理署の連携」

東濃署、岐阜県恵那農林事務所

・カラマツ林業等研究発表会

(二月八日)

「コンテナ苗の普及に向けた取り組み」

南木曽支署

・岐阜県森林・林業関係合同発表会

(二月六日)

「飛騨地域における民国の連携の取り組み」

飛騨署、岐阜県飛騨農林事務所

なお、当発表会では民有林サイドから、岐阜県恵那農林事務所、下呂農林事務所より、共同施業団地等、国有林（東濃署、岐阜署）と連携した取り組みについて発表がされています。

中部森林管理局・森林農地整備センター

中部整備局連絡会議を開催

〔企画調整課〕中部森林管理局・森林農地整備センター中部整備局連絡会議が二月二十五日、中部森林管理局において開催されました。

当連絡会議は、民有林・国有林を通じた一体的な林政を展開するため、情報交換や意見調整等を目的に設置したもので今回初めての開催となりました。

会議の冒頭、奥田局長のあいさつに続き、城土森林農地整備センター所長から九州の五木地域森林整備推進協定の取組の紹介があり、「九州に次ぐ第二、第三弾を中部で行いたい。」「苗木も共通課題。」「連携により木材の共同販売に繋がってほしい。」との話がありました。

会議では、お互いの事業概要や事業量、今後の苗木需要、低コスト造林の取組、契約事業体、森林整備推進協定等について情報交換を行い、「中部局から委託販売業務の問屋業者の情報をもった新たな業者に登録していただけた。」「コンテナ苗の単価は裸苗の二倍であるが増産されると単価が下がるため、中部

各地からのたより

木曽・王滝支援イベント

木曽ヒノキの郷巡りを開催

「木曽署・ふれセン・技術普及課」

木曽谷の林業・林産業を普及することと
もに、木曽復興支援にも資することとを
目的に、(一社)信州・長野県観光協会、
当局及び木曽広域連合が協力して「木曽

局と中部整備局の取組が重要」「苗木は
連携して進めないと需給調整が困難にな
る。」など今後の課題と連携の効果につ
いて話し合いました。
今後、事業及び関連情報の共有や技術
の開発・普及に関する連携、森林共同施
業団地の設定、中部局が実施するイベン
トや安全パトロールへの中部整備局の参
加など引き続き連携していくことを確認
し、第一回の会議を終了しました。



会議の様子

ヒノキの郷巡り」ツアーを、二月二十一
日・二十二日に開催しました。

木曽川下流域の方々を中心に参加を呼
びかけ、名古屋市をはじめとした愛知
県、三重県、東京都、長野県から総勢
二十四名の方々が参加してくださいまし
た。

名古屋事務所発着の貸切バス等で集合
した一行は、始めに上松町の製材工場
「池田木材株式会社」を訪問しました。

木曽署職員から人工林ヒノキのブラン
ド「**国産**木曽ひのき」の紹介が行われ、
同社の池田聡寿社長からは人工ヒノキと
天然ヒノキの丸太を前に、年輪の詰まり
の違いなど、木曽山の歴史を織り交ぜた
丁寧なお話があり、参加者は実際に木材
に触れながら真剣に聞き入っていました。



池田木材で説明を受ける参加者

製材工場内では、木の個性を活かすた
めの緻密な計算のもとで製材していると

聞き、皆さんカメラを構えながら木を敬
う姿勢とその技術に感嘆していました。

最後は、ヒノキの端材のお土産と共に
工場前で池田社長が伸びやかな声で「木
遣り歌」を披露され、参加者全員で掛け
声を合わせる楽しい一幕もありました。

木曽福島旧帝室林野局木曽庁舎「御
料館」では、木曽町観光協会からのご厚
意で名物の「すんき汁」の無償提供があ
り、「この酸味はクセになる。買って帰
りたい。」との声が聞かれるなど、地元
の手作り弁当と共に、木曽の伝統の味も
楽しんでいただきました。

また、館内の案内後は、長野県林業大
学校の学生四名と木曽森林ふれあい推進
センター職員二名の専用キットで、安全
なヒノキの箸づくり体験を指導の下、実
施しました。



完成した箸を手に記念撮影

王滝村の宿泊施設では、王滝観光総合
事務所から依頼された小谷宗司氏によ
り、「御嶽山の薬草や植物について」と
題し、王滝村の自然の魅力などお話をい
ただきました。

二日目は、この季節では珍しい雨模様
となったため、予定していた油木美林の
散策を急遽取り止め、宿から近い王滝村
の冬の名所「清滝」の迫力ある氷瀑を見
学しました。

その後、三岳へ開田高原を周り、名物
の蕎麦やアイスクリームを味わい、最後
は木曽町観光協会のガイドさんの案内
で、福島宿の歴史や木の文化に触れる散
策を楽しみました。参加者からは、違う
季節にも訪問したい。伐採体験や伐採現
場の見学にも参加してみたいとの要望も
いただき、林業への関心を高めるととも
に、木曽の良さを知っていただいた有意
義な二日間となりました。

第三次雲ノ平植生復元事業計画の 策定関係機関と雲ノ平植生 復元事業検討委員会を開催

「富山署」二月十九日、富山署において
第三次雲ノ平植生復元事業計画の策定に
係る検討会を開催しました。雲ノ平植生
復元事業は、平成二十年度・二十二年
度を第一次計画、平成二十四年度・二十六
年度を第二次計画として実施しており、
本年度が第二次の計画期間の最終年度と
なります。

このため、昨年の九月九日から十一日にかけて実施した現地検討会を踏まえ、第三次計画を策定するため、検討委員会を開催したものです。

出席者は昨年九月に現地検討会に参加していたいた東京農業大学、薬師岳雲ノ平保護管理協議会（雲ノ平山荘）、環境省立山自然保護官、富山県自然保護担当者、富山市科学博物館及び市担当者（大山総合行政センター）等、総勢十三名となりました。委員会では、平成二十六年度の植生復元事業報告及び当初事業からの六箇年の総括の報告に続き、第三次（平成二十七年～平成二十九年）計画（案）及び事業実行に係る許認可申請関係の確認や、各関係機関の役割などについての意見交換を行いました。



検討委員会の様子

を対象地として計画され、引き続き現地の施工方法同様に、現地の地形等に合わせた細やかで丁寧な施工方法で行うこととしました。

また、委員から第三次計画が終了すると約十年となり、事業結果の成果が求められることから、これだけの面積を実行したということだけではなく、現地の荒廃状況にに応じて、この場所ではこの様な施工方法が復元効果が大きい等の結果が得られることが大切であるとの意見が出され、調査内容の検討を含め三月末までに「第三次事業計画（案）」を修正し策定することとなりました。

「森林総合研究所との技術交流会」 相互の知見・認識の向上をめざして

【木曽署】二月十二・十三日、木曽署管内において、木曽地方事務所、王滝村、中部森林管理局、南木曽支署から七十一名の参加をいただき、「森林総合研究所との技術交流会」を開催しました。

木曽地域の国有林は、国内でも有数の木材生産地で木曽ヒノキをはじめとする天然林や高齢級人工林等が生育しているほか、三十年前に発生した長野県西部地震の災害箇所（王滝村）の復旧状況など、研究機関や研究者にとって非常に興

味深いフィールドとして様々な調査が行われています。

これらの調査研究は木曽谷森林計画区の管理経営を考える上で重要であることから、平成二十三年より学術と行政との技術交流を通じて相互に木曽谷の森林の保全・整備に関する知見や課題の共有を図ることを目的として本交流会を開催しています。

初日は、木曽署多目的ホールで発表会を行い、森林総研から①長野県西部地震により発生した岩屑流発生跡地の三十年後の土壌、植生の回復状況等三課題、②木曽ヒノキ天然更新に係わるササの抑制効果及び更新試験、赤沢木曽ヒノキ林の直近六十年間の生長解析など三課題、国有林からは、①高齢級人工林ヒノキのブランド化、②民国連携による木曽地域の林業再生の取組、③温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組（木曽悠久の森）の3課題を発表し、それぞれの課題について意見交換を行いました。



御嶽崩れの現況（展望台より）

発表会終了後は、宿泊場所である王滝村の民宿に移動し、お酒を酌み交わしながら森林や林業にまつわる情報交換を行いました。

二日目は、長野県西部地震（御嶽崩れ）災害跡地における森林総研モニタリング調査結果に関する分析を行い、当署から災害後三十年間の災害復旧の歩みと、昨年九月二十七日に発生した御嶽山噴火災害への対応を報告するなどし、二日間の技術交流会を終えました。



現地見学箇所での意見交換風景

なお、本交流会は昨年の十月六・七日で計画していましたが、御嶽山の噴火により見合わせていたところです。

今回、森林総合研究所をはじめ関係する方々のご理解とご協力により、王滝村で開催することができ心から感謝申し上げます。

信州大学生への

職場説明会を実施

【南信署】一月二十三日、信州大学農学部森林科学科二年生を中心とする学生三十五名を対象に職場説明会を実施しました。この取り組みは、例年信州大学からの要望を受け実施しているものです。

当日は、署長の国有林野事業の概要説明を始め、森林官や森林整備官等による各担当する業務内容、林野庁の採用情報、毎年実施しているインターンシップ情報等について、職員十一名で説明を行いました。



森林官業務について説明する伊那里首席森林官

説明終了後の質疑応答では、特に木材の安定供給や食害対策についての質問が寄せられ、職員の回答に熱心に聞き入っていました。

また、終了後行ったアンケートでは、学生から「職場説明会に対する人数のかけ方に熱意を感じた。」「公務員は様々な分野の能力が必要であると感じた。」「公務員は事務職のみと思っていたこともあり、現場での仕事があることは意外だった。」といった意見を多くいただきました。



質疑応答の様子

アンケートの意見にもあったように、実際に働いている職員の話を聞けることが公務員の仕事に対する印象の変化や、国有林野事業への興味につながっています。こうした話を聞いた学生の中から、インターンシップへの参加やその先の林野庁への就職へとつながるような学生が出てくることにも期待をしながら、今後この説明会を継続していきたいと考えています。

「中学生が職場にやってきた」

【中信署】三月三日、静岡大学教育学部付属浜松中学校一年生八名が来署しました。

浜松中学校では、総合的な学習の時間を「ライフタイム」と称して様々な職場を訪問することで生徒自身の興味・関心に応じ、課題を追求して自分の生き方・あり方を考える学習があります。

今回、生徒たちは浜松と長野県中信地区との林業の違いや、自然を守る人の生き方について学ぶことをテーマに職場を訪れました。

吉野署長からの管内概要説明と経験談に生徒たちは熱心に耳を傾けていました。



吉野署長の概要説明を聞く生徒

また、保存的自然保護と現状維持的自然保護の違いの説明については専門用語が多い中、一生懸命メモを取っていました。

短い時間ではありましたが、将来、どのような大人になるかを模索する多感な世代に向けて、「森林作り＝人作り」の大切さを通して、人生の先輩としてエールをおくることができたと思います。

最後に記念として、各生徒に『光陰如矢（光陰矢の如し…時間を大切に）』などの格言を書いた色紙をプレゼントして今回の訪問を終えました。



【北信署 水内森林事務所】

森林官 内藤 貴幸

水内森林事務所の位置する栄村は豪雪地帯であり、事務所から徒歩五分の所のJR森宮野原駅には日本最高積雪地点（昭和二十年積雪七・八五メートル）の標柱が建っています。

今年は、積雪量が例年より多く二月時点で、その標柱の半分は雪で埋まっています。



標柱の前に立つ森林官



署職員等と協力して休憩所の雪下ろし

平成二十三年三月十二日の長野県北部地震では栄村は甚大な被害を受け、その被害により森林事務所が全壊したため、平成二十五年三月に新しく森林事務所を建て替えました。

水内森林事務所の管轄面積は、栄村・山ノ内町の国有林で一七、一六七㏎です。大まかに区分すると、千曲川を挟んで北と南に分かれており、北は野々海高原に代表される中山峰国有林。南は秘境・秋山郷に代表される赤石沢国有林、鳥甲国有林、奥志賀高原を含む岩菅国有林です。

栄村の国有林は比較的なだらかな林地で大部分をスギが占め、奥山はブナを主体とした広葉樹林です。貴重な自然と生態系を保護するため、月夜立特定地理等保護林、苗場山湿原植物群落保護林、佐武流山周辺森林生態系保護地域等が指定されています。

事務所の主な業務として今年度は、森林整備事業（四二㏎）や製品生産事業（二七㏎）の実行に伴い、その監督を行っています。豪雪地帯の樹木は、極度な根曲がりや打ち出し部分が他地域より多くありますが、栄村の北野天満温泉の木質チップボイラーや長野市のいづなお山の発電所等の木質バイオマス燃料等にも利用され、林地残材の有効利用を進めています。



栄村森林組合が実施している根曲がり材を使ったチップの作成

また、事業地内に生育する広葉樹の大径材の販売に力を入れ、そのような木があれば署へ連絡し、有利に委託販売できるように採材に気をつけ搬出しています。

地域との繋がりとしては、NPO法人「信越トレイルクラブ」と「関田トレイル」の維持管理等活動に関する協定を締結し、今年度はトレッキングコース沿いのカシノナガキクイムシによる枯損木伐採作業を行いました。



関田トレイルの危険木処理

また、毎年行われる栄村観光協会の総会や遭対協総会、秋山郷山開き、野々海池大明神祭等に出席し、市町村関係者や、地元住民の方々と意見交換しています。

平成二十六年十二月に日本ジオパーク協会より、苗場山周辺が苗場山麓ジオ



ジオパークに認定された苗場山

パークとして認定がされました。苗場山周辺の国有林も見所のスポットとなるため、今後はジオパーク保全部会等に参加し多くの人々に国有林をアピールできるように努力していきます。

最後に、当事務所には森林技術員等がいないため、人手がいる調査等は署や近隣の森林事務所（木島平、野沢）、臨時作業職員と一緒に業務を行っています。

今後も連絡調整を密にし、応援協力しながら、安全第一で明るく元気に現場業務を遂行していきます。

人のういき

◎第一回森林管理署長等会議

4月16日～17日 中部局

◎生産・販売事業担当者会議

4月21日～22日 中部局

お悔やみ申し上げます

故 奥原 豊氏

木曽署 関田森林事務所 森林技術員

森林技術員 奥原 豊氏（五十八歳）は三月十一日に、ご逝去されました。

奥原氏は、王滝営林署、木曽森林管理署に勤務され、活躍されてきました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。



夕日に映える北陸新幹線高架橋

◆北陸新幹線開業

平成二十七年三月十四日、北陸新幹線、長野・金沢間が開業しました。糸魚川市には列車名「はくたか」が一時間に一本程度で発着します。これにより糸魚川～東京間の上り列車が現行の最速所要時間を約三〇分短縮され二時間四分となります、下り列車の最速は一時間五九分となります。



◆糸魚川世界ジオパーク

糸魚川市は日本を東西に分断する大地溝帯「フォッサマグナ」の西縁に位置し、特異な地形・地質に巡り会える貴重な地域です。



高浪の池と石灰岩からなる明星山

自然環境の保全、教育への活用、ジオツーリズムの推進、地域振興への寄与等、そこで芽生える文化とともに大地の遺産として、二〇〇九年日本で初めて世界ジオパークに認定されました。現在、糸魚川ジオパークには二十四のジオサイト（見学地）が設定され、日本列島誕生の歴史を垣間見ることができます。

また、糸魚川駅発着のガイド付き定期観光バス「糸魚川ジオまる号」が定期的にコースを変えて運行されており、三月十四日～二十九日まで天下の険とし

て知られる国の名勝「親不知」やフォッサマグナミュージアムなどを巡る「松尾芭蕉の史跡めぐりコース」が運行予定で



糸静構造線の断層露頭

◆ヒスイとフォッサマグナミュージアム

ヒスイは古代から装飾品として珍重され、ここ糸魚川地域が日本最大の産地となっています。佐賀県の吉野ヶ里遺跡や青森県の三内丸山遺跡で出土したヒスイ製品も糸魚川産でした。今でもヒスイの原石を求めて姫川沿いや海岸を散策する人々がしばしば見られます。見つかる石の種類は日本一とか。



上質な巨大ヒスイ「翠の雫」

そんな鉱物の魅力を深く理解できるのが年間六万人以上が訪れる人気の博物館「フォッサマグナミュージアム」で、三月九日リニューアルオープンしました。珠玉のヒスイ「翠の雫」の展示をはじめ、鉱物標本などが映像資料を交えてわかりやすく展示されています。

また、国史長者ヶ原遺跡から出土したヒスイの加工道具や土器・石器などを展示する長者ヶ原考古館も隣接していますので併せて見学することができます。



光を透過し輝くヒスイ

◆アクセス方法

●糸魚川へは

長野市から北陸新幹線で三六分

松本市から大糸線で三時間半

●高浪の池

北陸自動車道糸魚川IC下りて四〇分

●定期観光バス「ジオまる号」

駅アルプス口バス乗場から土日祝運行

●フォッサマグナミュージアム

北陸自動車道糸魚川IC下りて五分